

推薦理由書

学長候補者氏名 塚本 康浩

塚本康浩氏は平成20年に本学教授として着任され、平成30年に生命環境科学研究科長を経て、令和2年から学長・法人副理事長として本学と法人の改革を牽引してこられました。公立大学協会の理事も務められ、公立大学の在り方や研究力向上に尽力されました。就任当初から現状を丁寧に分析され、エビデンスに基づく運営改善を進め、令和6年の学部・学科再編を実現されました。さらに、令和8年には社会科学部の新設と、府内農林系高校の系属化による高度な高大連携を予定され、準備を着実に進めておられます。事務局体制もガバナンスが実効的に機能するよう改善されるとともに、プロパー職員の雇用促進等、大学運営を中長期の視点で構想し、迅速な実行と確かな成果へ結び付けてこられました。これらは、起業家として培われた実行力が大学経営に昇華した結果であり、大学のリーダーとして高く評価できます。

塚本氏は、ダチョウ抗体研究の先駆者、通称“ダチョウ博士”として国内外で広く知られています。研究成果を基に大学発ベンチャー「オーストリッチファーマ株式会社」を創業され、1,000億円を超える市場効果と多くの新規雇用を生み出してこられました。「情熱大陸」「ガイアの夜明け」をはじめ多様なメディア（バラエティ番組を含む）での出演により、本学の認知度を高めるとともに、研究の価値を社会に分かりやすく伝えてこられました。卓越した学識と実行力とユニークさを兼ね備えた稀有な人材であると認めます。

DX推進では、大手民間企業と連携して5G基地局の設置を進め、スマートキャンパス化に向けた学内向けLINEアプリを構築してこられました。新型コロナウイルス感染症の拡大期には、講義や学内行事を迅速にオンライン・オンデマンド化し、現在も有効に活用されています。学内の教育と事務運営の効率化を見据え、DX担当副学長の配置を進めるなど体制を明確化し、今後も引き続きAI活用とDX推進強化の意思を強く示されています。国際面では、シンガポールにサテライトオフィスを設置し、学生向けアントレプレナーシップ研修を実施されました。加えて、海外大学との連携協定と単位互換を拡大し、学生の学修機会を大きく広げてこられました。海外への留学生数そして海外からの留学生数の増加により、国際感覚を身につけた人材育成のプラットフォームになることを狙っておられます。これら全ては本学の教育と業務の質向上に資するものであり、学生と教職員のためであると評価できます。

大学経営の健全化では、エビデンスに基づく中長期計画の下、改革を実施し成果に結び付けてこられました。就任当初から厳格なモニタリング体制を整え、学生定員の適正な拡大や一部学科の文理転換による収入基盤の強化、自由度の高い寄附金の獲得を一体的に進められました。早期黒字化計画を具体的工程として運用し、令和9年の黒字化達成を現実的な見通しとして提示しておられます。起業家・実務家としての能力が大学運営にも的確に発揮されています。

総合大学として、文系理系を問わず、基礎から応用、そして社会実装までを大学の使命「知の探究から社会価値化へ」と捉え、研究型大学へのシフトチェンジに重きを置かれています。入試に関しては、優秀な人材確保に向け、入試の在り方を継続的に検証し、多面的評価の拡充や募集区分の最適化を粘り強く実装されています。あわせて、内閣官房参与や弁護士、警察庁経験者等を登用した学長特別補佐制度を創設し、政府との折衝を適切に進めつつ、ハラスメントやトラブルに迅速かつ公正に対応できる体制を確立されました。災害時（落雷等）の復旧にも先手対応し、ゼロカーボンニュートラルコアリションへの参画を推進してこられました。今後、新自然史創生センター、京の防災防疫安全安心研究センター、ゼロカーボンキャンパス推進センターの学際的機能を駆使して気候変動や災害に対する学術的な貢献ができると期待されています。

塚本氏は学生部長を兼ね、就職支援やキャンパスライフの充実、保護者・地域との連携強化にも心を砕いてこられました。特に、絶えず学生の意見を真摯に受け止め、最大限の対応をされてきました。

施設整備では、学長就任以降、老朽施設の更新を基本計画まで進め、昨年度に京都府と折衝して今年度のスポーツ施設整備の当初予算を獲得されました。現在、本学は学舎整備の重要局面にあり、グラウンド、体育館講堂、学舎、研究棟の整備を緊急に前進させる必要があります。防災機能を備えた施設整備を進めておられます。塚本氏は、設置者との交渉力、財務規律と将来投資獲得戦略、補助金支援等の法的知識に優れ、これらの大規模プロジェクトを着実に推進するうえで欠かすことのできない存在です。学舎整備の真ただ中に立ち、全体を統合的にマネジメントできる唯一無二のリーダーであると考えます。

府内自治体・高校・企業との包括連携協定も多数締結され、京都府北部の受験生のために峰山高校での共通テスト実施にも取り組まれました。究極の地域貢献と言っても過言ではありません。さらに、地域貢献型特別研究（ACTR）の深化や文化庁との包括協定締結および連携室設置は特筆に値します。これらの取り組みにより、本学の存在感と信頼性は着実に高まっています。

以上のとおり、塚本氏は「求められる学長像」が求める資質－中長期戦略と実行力、統治と説明責任、DXと国際化への先見性、文理融合で課題を解く力、学内外の信頼を築くコミュニケーション力－を高い水準で備えています。また、将来的なビジョンとして、京都府公立大学法人そのもののあり方、北山エリア、そして本学のあり方を根本的に見直し、独立性で個性的な京都府立大学の発展のための戦略を実行できる存在です。

よって、塚本康浩氏を京都府立大学学長として強く推薦いたします。